2024年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	戸上幹太		
所属	理工学部　海洋空間のシステムデザインEP	学年	学部4年
派遣先大学	VIT（ベロール工科大学）		
期間	9月18日～10月1日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと
義務教育レベルの英語学習を受けており、かつ英語で自分の意思を伝えたいという意思があれば、英語で自分の意見を伝えることはある程度はできる（スピーキング）。しかし、相手の意見を正しくくみ取り、レスポンスを素早く行うには、事前に長期間リスニング学習を行う必要があることが分かった。派遣の前半と比べて、後半では多少インド英語に耳が慣れてきたものの、流暢な会話を行えるレベルには遠く及ばず、事前の準備不足を痛感させられた。
派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと
インドは宗教の国といわれるだけあって町中に多様な寺院が多く存在し、どの寺院も土足で入れないことや、地域住民が大人数参拝に来ていたことから、インドの人々の神様に対する、日本人との意識の違いが感じられた。 また漠然と、和食や温泉といった日本の文化はどの国の人に対しても受け入れられるものだろうと考えていたが、持参した味噌汁が苦手だった人や、日本には行きたいが温泉には絶対に入りたくない人などがおり、過度に自分の国の文化に自信を持っていたことを自覚させられた。
来年度プログラム参加を考えている学生へ
自分はこのプログラムが初めての海外渡航になりました。そんな自分が伝えたいことは、経験の０と１は全く違うものであるということです。正直なところ自分は海外にすごい興味があったわけではなく、このプログラムに参加するかどうかぎりぎりまで迷っていたのですが、いまは参加してよかったと心から思っています。日本以外の国を知るという経験は簡単にできることではなく、何物にも代えがたいものです。日本に住み続けるとしても、海外の人と交流せざるをえない今の日本で、英語が苦手な人、海外で働く・住むことにあまり興味がない人にこそ、このプログラムに参加してほしいと考えています。

2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	吉田　優人		
所属	理工学府　機械・材料・海洋系工学専攻	学年	2
派遣先大学	ベロール工科大学　Vellore Institute of Technology (VIT)		
期間	9/18 ~ 10/1		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと
チェンナイとベロールの両キャンパスで技術学祭のようなものに参加した．AI やロボット等の技術を環境問題に絡めた発表が多かった．また，街中の広告や商品のパッケージにも環境問題に取り組んでいるアピールをしているものがあり，国全体として環境問題に対する意識があることを感じた．語学面では，スピーキング能力の低い自分でもなんとか言いたいことを伝えられることが分かった．ただ初対面の人や早口な人の会話を聞くことが難しく，相手の言っていることが分からないと会話は続かないため，会話におけるリスニング能力の重要性を感じた．また，日本で英語を話すときは内容が正しければ片言のような英語でも伝わるためそこまで重要でないと思っていたが，Third をサードと発音したり rules をルールと発音した際に全く伝わらなかったことから，発音の重要性も感じた．
派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと
日本でも辛い物があまり得意でなかったため，インドの食事は興味半分，不安半分だった．しかし実際に 13 日間滞在し色々な食事を経て，もちろん辛いものは多いが辛さ控えめなものも多く，何より基本的にすべての食事が自分にとって非常に美味しく感じれたことに驚いた．日本のご飯が飛び抜けて美味しいものだという固定観念を変えるきっかけとなった．食事はスパイスを使った辛いものが多く，スイーツやドリンクは甘味の強いものが多いのは、暑い国でより長く保存させるための工夫から始まったのではないかと思った．
来年度プログラム参加を考えている学生へ
海外に行ってみたい，カレーを食べたい，海外の友達を作りたい，英語で話してみたいなどどのような理由でも良いので迷っている人は絶対に参加すべき．金銭面もそこまで気にする必要なく，かつ比較的安全にインドに行ける機会はあまりないのでこの機会を活用すべき．例年お腹を壊す方がいるようだが私たちは除菌ペーパーで毎食手を拭いたり歯磨きはペットボトルの水で行うなどしていたら，二週間元気でいられた．また，VIT で出会った学生は日本好きな人が非常に多く優しい人も多かったので，現地で特に心配することはないと思う．私はこのプログラムに参加して心から良かったと思っている．

For Booking / Bulk Orders : 9940404073 / 9841078142

2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	安藤　聡志		
所属	理工学部機械・材料・海洋系学科機械工学 EP	学年	4 年
派遣先大学	ベッロール工科大学		
期間	9/18(木) ～ 10/1(火)		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと
ベッロールキャンパスでは自分の専門である機械工学に関する施設を見学する機会がありました。実習施設や機械加工用の設備が整えられた教室では、実際に現地の学生たちが小型飛行機のプロジェクトに取り組んでいる様子を見学しました。現地の学生たちと話すことで、彼らがどのように学び、どのような目標を持っているかについて知ることができ、異なる価値観に触れる良い機会となりました。 語学面では、英語を通じたコミュニケーションの重要性を改めて感じました。インドでは多様な言語が存在し、英語が共通語として使われていますが、現地の学生たちは非常に流暢に英語を使いこなしており、その中で日々の会話を通じて自分の英語力を試される場面が多かったです。初めての英語での海外研修であったため、最初は緊張もありましたが、キャンパスツアーやイベント参加、そして友人との食事の機会など、交流を通して少しずつ自信がついていきました。また、インドの学生たちと英語で交流する中で、言語だけでなく、異文化間でのコミュニケーションにおいて大切なことにも気付かされました。 さらに、インタビューや学内のラジオ出演といった体験を通じて、自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝える技術が求められることを実感しました。特に、事前の準備や要点の整理の重要性を再認識し、今後の学習に活かしたいと感じました。
派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと
インドでの生活は、日本とは大きく異なる文化と社会に触れる貴重な体験でした。まず、日常生活において、街の活気や人々の生活のリズムが印象に残りました。特に、交通の混雑やクラクションの音が日常的に響き渡る街の風景は、とてもエネルギッシュな印象を受けました。 文化的な面では、宗教の存在が社会のあらゆる部分に根付いていることに驚かされました。インドでは、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教、シーク教など、多様な宗教が共存していて、至るところで寺院や礼拝所を目にしました。また、訪れる先々で出会う人々が敬虔な姿勢で礼拝を行っているのを目の当たりにし、宗教がインドの文化や生活にどれほど深く影響しているかを実感しました。 食文化においても、日本と大きな違いがあり、新しい体験が多かったです。インドの食事はスパイスが豊富に使われており、特にカレーやサンバなど、多種多様な味と香りで食欲をそそられた。はじめはスパイスの強さに驚くこともありましたが、次第に慣れていき、インドの食文化を楽しめるようになりました。また、食事を手で食べる習慣や、ベジタリアンが多いことも新鮮でした。 さらに、インドの人々の温かさやホスピタリティも印象的でした。多くの人々が親切に接してくれ、異国から来た私たちを歓迎してくれました。特に、学生たちや大学の先生方が積極的にサポートしてくれ

たため、安心して生活することができました。
来年度プログラム参加を考えている学生へ
ベッロール工科大学（VIT）での派遣プログラムは、本当に楽しく、貴重な経験となりました。インドに対して、衛生面や食事に対する不安を抱く人も多いかもしれませんが、しっかりと対策すれば大丈夫だと思います。このプログラムでは大学が安全面をしっかりとサポートしてくれ、普通に旅行するよりも安心して滞在できる環境が整っていました。移動には車を手配してくれ、現地のスタッフや学生が常に私たちをサポートしてくれるため、外出時にも不安を感じることなく過ごすことができました。また、生活面でも Wi-Fi やエアコン、水など必要なサポートを受けられ、思ったよりも快適に滞在できました。 さらに、出費がほとんどかからない点も大きな魅力でした。食事や移動にかかる費用も現地の友人や大学がサポートしてくれたため、個人の負担は少なく済みました。そのため、費用面での不安なく参加でき、海外での生活を思い切り楽しむことができました。特に、現地でできた友人たちと過ごす時間はかけがえのないものとなり、異文化の中で自分を試すと同時に、多くの価値観や考え方に触れることができました。 このプログラムを通じて海外の友人もでき、新たな視野が広がるとともに、自分自身の成長も感じられると思います。きっと、忘れられない思い出とともに、多くの学びを得ることができると思います。